

2014年度特別研究期間 研究成果概要

所属・職・氏名： 社会学部・教授・難波功士

研究課題：メディアと表象の社会学

研究期間：2014年4月1日～2015年3月31日

研究成果概要（日本文（全角）の場合は2,000字程度）

2014年度に公刊できた単著書は、『大二病：評価から逃げる若者たち』（双葉社、2014年7月刊、270p）と『「就活」の社会史』（祥伝社、2014年12月刊、396p）の二冊であった。いずれも新書であり、一般読者向けの書物ではあるが、後者では就職活動する人々（特に大学生）が、いかにメディアにおいて論じられ、表象されてきたかを分析している。

年度中に脱稿した原稿としては、「神田の生まれ」『博報堂120年史（仮）』（博報堂、2015年中に刊行の予定）や「広告と社会学」『広告研究ガイドブック（仮）』（有斐閣、近刊予定）があり、いずれもこれまで続けてきた広告史研究をベースとしている。広告史に関して言えば、「関西CMらしさとは」（テレビ文化アーカイブス研究会、2014年11月29～30日、於：関西大学飛鳥文化研究所）という報告を行った。これはSEIKAコレクション（京都精華大学のCMデータベース）や旧万年社所蔵資料をベースとした研究会活動の一環であり、研究会として2015年度中に共著書をまとめる作業を続けており、その出版企画に「関西CM論」といった論考を寄せるべく、難波個人も鋭意作業を進めている。

また広告に関しては、「広告の空間論」（伊藤守編『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房）の改訂・加筆作業や取材対応（「時代は「テレビCM」とともに」2014年12月20日号『週刊現代』）、項目執筆「広告代理店（広告会社）」など7項目（武田徹ほか監修『現代ジャーナリズム辞典』三省堂、2014年5月刊）、書評執筆「加島卓『＜広告制作者＞の歴史社会学』（近々『メディア史研究』に掲載予定）、新聞でのコラムの掲載「関西発のテレビCM史」2014年4月10日付「産経新聞（夕刊）」などを期間内に行った。

メディア史全般で言えば、2015年度内公刊を目ざして作業中である土屋礼子編『メディア史年表（仮）』（吉川弘文館）において、「広告」パートの編集・執筆作業を担当し、そのための準備も継続的に行ってきた。他にも藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』（ミネルヴァ書房）において担当した「メディア史：雑誌をめぐる」の章を、よりアップ・トゥ・デートなものにするための改訂作業を行った。また、書評「一之瀬俊也『戦場に舞ったビラ』」が、共同通信文化部編『書評大全』（三省堂、2015年3月刊行）に採録された。

広告やメディア関連以外では、関西学院大学先端社会研究所と戦争社会学研究会との共催研究会「書評シンポジウム「戦争が生みだす社会」」（2014年9月15日、於：関西学院大学梅田キャンパス）においてパネリストとして参加している。また、この時の応答をベースとして、『先端社会研究所紀要』に掲載するための、討論者へのリプライを執筆した。先端社会研究所の日本班メンバーとしては、2014年度には「在日コリアン表象の変遷」をテーマに資料の収集・分析を続けてきた。こちらにも2015年度内には、なんらかの成果の発表にこぎつきたいと考えている。また、大学学部生向けの社会学の入門書・テキストをつくる作業にも関わっており、こちらに掲載予定の原稿も2015年度内の脱稿に向けて準備を始めている。

その他、先にあげた新書二冊以外にも、若者論関連では、「自著を語る『社会学ウシジマくん』：まっ黒なエンタテインメント」（2014年4月発行『青少年問題』春季号）、「怒らなくなった若者たち」（2014年11月号『児童心理』68-16(994)）、研究報告「1980年代と〈若者〉」（日本近代文学会春季大会、2014年5月24日、於：聖心女子大学）、書評「切通理作『本多猪四郎』」（2014年12月14日付『日本経済新聞』）などを発表し、「女性応援団長「オス」！」（2014年4月30日付「読賣新聞（夕刊）」、「ヤンキー文化死なず？」（2014年6月26日付「産経新聞（夕刊）」、「いつの時代もヤンキー男子！」（2014年8月28日号『女性セブン』52-31、「「憧れ」はネットで消えた」（2014年12月7日付「日本経済新聞」）などの取材対応を行った。また、『江戸川乱歩辞典（仮）』（勉誠出版、近刊予定）に「遊民」、井上俊・永井良和編『コトバの風景（仮）』（ミネルヴァ書房、近刊予定）に「就活」「ブラック企業」の項目執筆を行った。刊行は2015年度になるが『児童心理』（金子書房）や『公研』（公益産業研究調査会）に掲載予定の原稿執筆（テーマは「子どもや若者にとってのSNS」）や対談（テーマは「人口漸減期における社会と若者」）なども、今年度内に行っている。

この期間、言説分析、表象分析に関する方法論的・理論的検討も並行して行ってきた。今後は、そうした作業と、具体的な分析（諸メディアにおける在日コリアンの表象や、広告人（ないし広告業界）の表象などの歴史社会学的研究）とを重ねあわせて、単著書などの執筆・公刊へとつなげていきたいと考えている。

研究成果概要は、データは gakunai@kwansei.ac.jp まで提出してください。